

終戦
65年

世界の流れに
「核兵器ゼロ」もとめる声が

日本のひきおこした戦争は、アジアで2000万人、日本で300万人をこえる人々を犠牲にしました。広島、長崎におとされた原爆は、街を焼きつくし、数十万人の命をうばい、いまでも、多くの人々が後遺症に苦しめられています。

「二度と戦争はしない」「ヒロシマ・ナガサキの悲劇をくりかえさせない」——この悲願のもとに出発した戦後日本。いま、核兵器廃絶をめざす新たな国際的うねりが広がっています。

核廃絶が国際政治の現実課題に

今年の原水爆禁止世界大会は、すべての国の政府に、核兵器廃絶条約のすみやかな交渉の開始をもとめた「手紙」を採択。「核の傘」からの離脱を日本政府にもとめました。世界大会に激励のメッセージをはじめてよせた潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は、みずから核兵器廃絶条約を提案しています。

菅首相「核抑止力は必要」にきびしい批判

この流れに逆行するのが菅首相です。「核抑止力論」は、核兵器をもつことが前提であり、核兵器廃絶と絶対に相いれません。「世界が核をなくそうというときに、被爆国の首相が、“核は必要”というのは許せない」と、被爆者団体をはじめ、国内外から怒りの声がわきおこっています。

いまこそ

被爆国・日本が 「核の傘」から離脱を

唯一の被爆国としての日本がはたすべき役割は、アメリカの「核の傘」から離脱し、「核のない世界へ」の先頭にたつことです。日本共産党は、核兵器廃絶をねがう世界の人々と力をあわせがんばります。



日本共産党

購読
申込書

印をおつけください ● 日刊 月2900円 ● 日曜版 月800円

お名前

住所 〒

☎



2010年8月号外

発行●日本共産党中央委員会

〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7

TEL 03-3403-6111 FAX 03-5474-8358

お申し込みは、お近くの党事務所または党員か、右記まで。ホームページからも申し込みます。

<http://www.jcp.or.jp>

普天間 基地

無条件撤去こそ 解決の道です

沖縄県民の4人に1人が犠牲となった凄惨な地上戦を国内で唯一経験し、米占領下で銃剣とブルドーザーで土地を奪われ、戦後65年にわたり基地の重圧をおしつけられてきた沖縄。

“沖縄のねがい”ふみにじる 「辺野古移設案」

菅政権はあくまでも、5月の「日米合意」できめた辺野古への新基地建設をすすめるつもりです。しかし、「基地のない平和な沖縄」が県民の総意です。沖縄県議会も、「沖縄県民の総意をまったく無視するもの」と辺野古移設を断固拒否しています。政府は、県民の頭越しにきめた「日米合意」を白紙撤回し、無条件撤去にふみだすべきです。

日米安保50年

時代おくれの軍事同盟やめて 対等・平等・友好の新しい日米関係を

政府は「抑止力」として米軍基地は必要といますが、イラクやアフガンの現状をみても、軍事力では何も解決しません。

世界はいま、話し合いで紛争を解決する平和の共同体が主流です。東南アジア友好協力条約(TAC)は、欧米をふくむ世界54カ国、世界人口の7割に広がろうとしています。日本に必要なのも、平和をきづく外交力です。

アメリカとの関係も、時代おくれの軍事同盟ではなく、対等・平等・友好の新しい関係をきづくことが、日本共産党の目標です。

命がけで
戦争反対を
つらぬいた
党として

核も戦争もない
平和な世界をめざし
全力をつくします

日本共産党

